

ハイワイヤー養液栽培用ピーマン品種育成の取り組み

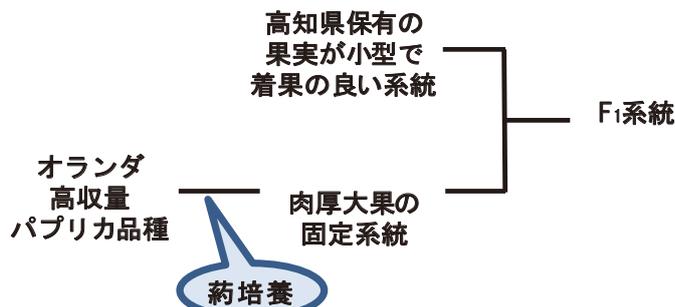


図1 育成経過



HW試交6号



HW試交10号



‘みおぎ’



‘トサミドリ’

写真 F₁系統と既存品種の果実

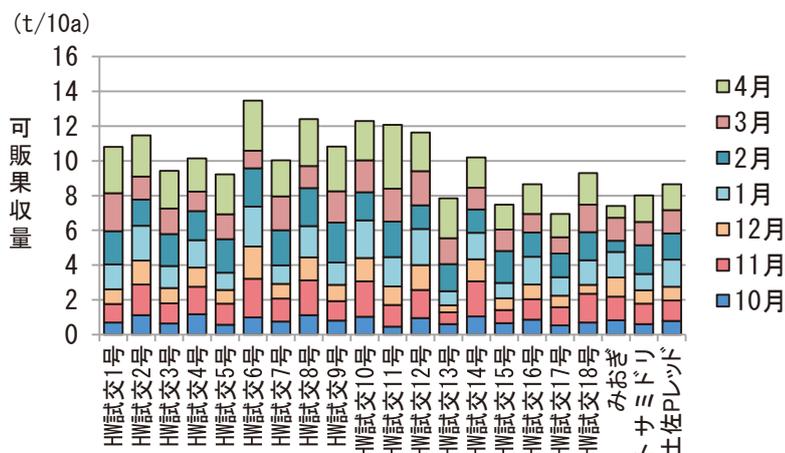


図2 収量特性(10~4月)

表 果実特性²⁾

| 品種・系統 | 果実重 (g/果) | 果実長 (mm) | 果実幅 (mm) | 縦横比 (果実長/ 果実幅) | 果肉厚 (mm) | 心室数 | しわ (多~少) | 光沢 (強~弱) | 果揃い (良~不良) |
|---------|--------------|-------------|-------------|----------------------|-------------|-----|-------------|-------------|---------------|
| HW試交6号 | 43.2 | 87 | 43 | 2.0 | 3.0 | 3.2 | 中 | 中 | 中 |
| HW試交8号 | 41.6 | 82 | 45 | 1.8 | 2.8 | 3.1 | 中 | 中 | 中 |
| HW試交10号 | 38.7 | 84 | 45 | 1.9 | 2.7 | 3.2 | 中 | 中 | 中 |
| みおぎ | 37.8 | 92 | 42 | 2.2 | 2.5 | 3.2 | やや多 | 中 | やや不良 |
| トサミドリ | 40.2 | 82 | 42 | 1.9 | 2.7 | 3.4 | 中 | 中 | 中 |
| 土佐プレッド | 38.6 | 85 | 43 | 2.0 | 2.5 | 3.1 | 中 | 中 | 中 |

2) 2015年2月13日~4月20日に収穫したA品果から任意の20果を調査

高知県では、高軒高ハウスでのハイワイヤー養液栽培で高収量が得られるピーマン品種の育成に取り組んでいます。今回、オランダの収量性の高いパプリカ品種を育種素材に用いて肉厚で大果の固定系統を育成しました。この系統を花粉親、県が以前から保有する果実が小型で着果の良い系統を子房親として交配した18のF₁系統(HW試交1号~同18号)の収量性を比較しました(図1)。

高軒高ハウスでハイワイヤー養液栽培の促成作型で試験を行った結果、多くの系統

が既存のピーマン品種に比べ可販果収量が多くなりました(図2)。また、果実は肥大が良く、果実形質も既存のピーマン品種と同程度のものが得られたことから(写真、表)、オランダのパプリカ品種を育種素材として利用できることがわかりました。

今後も引き続き生産力検定を行うと共に、同様の手法で新たなF₁系統を作出し、ハイワイヤー養液栽培に適したピーマンオリジナル品種の育成に取り組んでいきます。

(園芸育種担当 戸梶賀仁 088-863-4916)